

J Aカフェ 若者の発想を

松山大生 商品や販促4案報告



若者目線のアイデアを発表する松山大の学生—26日午後、松山市湊町8丁目

を発表した。

若者の発想を農業分野の課題解決や地域活性化に生かそうと、県信連と松山大のゼミは2019年に協働事業書を締結。年度ごとにテーマを設け、県産農産物の加工商品の販売促進などの研究に取り組んでいる。26日は、農産物直販所「太陽市（おひさまいち）」に隣接する同店の特徴を踏ま

県信用農業協同組合連合会（県信連）と松山大経営学部とのゼミによる協働事業の報告会が26日、JAえひめ中央「みなとまちまっぴる」（松山市湊町8丁目）であった。同JAが運営する「ひなたCAFÉ」（同）の商品開発やプロモーションをテーマに、学生19人が写真共有アプリのインスタグラムなどを活用した4案

えた学生へのヒアリング調査、マーケティング分析などを基に4班が発表。米粉でできたクロワッサン生地のワッフル「クロワッフル」やカラフルな断面の「ブッシュポップケーキ」のほか、四季のプロジェクションマッピング（映像投影）と季節限定スイーツの提供など、「インスタ映え」を意識した発想をアピールした。

電源と通信環境を整えたカフェを提案した班の3年、中山泰一さん（20）は「作業中も手軽に食べられる県産野菜のラップサンドの提供など、さまざまな角度でアイデアを考えるのに苦労した」と話した。

ひなたCAFÉのパティシエは「細かい部分まで考えてもらいたい。秋以降の商品を考える際の参考にしたい」と感想を述べ、JAえひめ中央直販部の越智浩二部長は「貴重な意見を参考に、若者に愛される店舗にしたい」と話した。